

フランスの文学と文化

18世紀フランス小説における 「読書する女」と 作家の試み

講師：宇野木めぐみ

立命館大学講師

7月29日(月) 16:20~17:50

会場：語学センター LL403A

講義概要

18世紀は「女性の世紀」と称される一方、法的制度的にも、慣習上も性差による不平等がありました。また、詩や戯曲に比して小説の文学的地位は低いものでした。18世紀の絵画、女子教育論、啓蒙的医学書には「女性にとって小説の読書は危険」という発想が共通して見られます。このような小説有害論＝小説バッシングが流通している中で、作家たちは、その作品中で、読書する女性をどのように描いているのでしょうか。時代の支配的な言説と作家たちの試みを考察します。

* 本講演は「フランスの文学と文化」(担当：国際学部・大場静枝)の授業の一環で開催します。受講者以外の方の聴講も歓迎します。